

令和元年6月10日現在

機関番号：32687

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K17256

研究課題名(和文) 市民参加の持続性と多様性をもたらすコミュニティ組織運営手法の開発

研究課題名(英文) Development of community organization management methods that contribute to sustainability and diversity of citizen participation

研究代表者

高橋 尚也 (TAKAHASHI, NAOYA)

立正大学・心理学部・准教授

研究者番号：10581374

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：現状の地域活動を「地域活動推進スキル」と「社会変革へのコミットメント」の観点から分析し、現状では、「他者を歓迎」や「初心と呈示」のような他者への寛容的なスキルが社会変革へのコミットメントを促進することを見出した。一方、現状の地域活動の推進に寄与する特徴を有している者であっても、Adulthood(大人が『若者よりも優れており、若者をコントロールできる』と考えること)に対する感受性が相関レベルで低いことが明らかになった。現在の地域活動関与者のAdulthoodへの感受性を高めることが、市民参加の持続性と多様性をもたらすコミュニティ組織運営をもたらしことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域活動推進スキルとして、コミュニケーションのあり方に注目したことにより、「他者を歓迎」や「初心と呈示」のような他者への寛容的なスキルの必要性和有効性を明らかにした。社会変革へのコミットメントとして、市民参加として議論されてきた側面を整理し、測定可能な尺度を作成したことにより、市民参加の側面によって帰結が異なることを見出した。現在の地域活動関与者におけるAdulthood感受性の低さを示し、今後の具体的な指針を示した。

研究成果の概要(英文)：The present community activities were analyzed from the viewpoint of "community activity promotion skills" and "commitment for social change". As a result, it was found that tolerance skills to others, such as "Welcome others" and "Original intention and presenting" promoted the commitment for social change. On the other hand, even those who have characteristics that contribute to the promotion of the current community activities, it was shown to be low sensitivity to Adulthood (that adults can 'be better than adolescents and can control adolescents') at the correlation level. It was discussed that sustainable and diverse citizen participation could be realized by enhancing the sensitivity to Adulthood in current community activity's participants .

研究分野：社会心理学

キーワード：コミュニティ 社会変革へのコミットメント 地域活動促進スキル Adulthood

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

これまでの地域活動組織に関する研究では、単一地域の事例報告の中で、市民参加の低さや参加者の固定化、活動のワンパターン化などの問題が表面化していた。これらの問題の背後には、地域活動組織内での運営手法の不足と、地域活動組織にマネジメント的視点を導入する必要性が指摘できる。しかし、地域活動組織内での運営手法に関する一般的知見は少なく、組織が類似性や同質性が高いメンバーで継続されやすく、多様性や一般的信頼の醸成が不足していた。そこで本研究では、「地域活動運営スキル」と「意見の多様性を把握する手法」に着目し、地域活動組織の活動進展段階に即した継続的で多様な市民参加を促進するための運営技法を考察することとした。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、継続的で多様な市民参加を促進するための地域活動組織における運営技法を探索し、開発することである。この目的を達成するために、【研究1】「地域活動運営スキル」の構造把握と尺度作成、および、【研究2】「社会変革へのコミットメント」尺度の作成を行い、メンバーが組織内の多様な意見分布を把握できる手法の探索を行う。その上で、【研究3】前述の知見を地域活動組織の運営に適用した場合、市民参加の多様性や継続性を促進する上で求められる特徴を分析する。

### 3. 研究の方法

#### 【研究1】地域活動運営スキルの構造

品川区内でボランティア活動団体等に所属しボランティア活動を継続的に行っている人々を対象とした個別自記入形式の調査を個別配布・郵送回収により実施した。調査時期は、2015年9月から10月。配布数93票、回収数56票であり、有効回答者は56名であった。

分析項目：(1) ボランティア活動者のスキル（独自作成、38項目、5件法）、(2) 地域活動に対する態度（高橋(2014), 9項目、4件法）、(3) ボランティア活動に関する項目（継続期間、開始のきっかけの自発性、各1項目）、(4) 地域に関する項目（当該ボランティア組織以外の地域活動組織数、近所づきあい、地域愛着、各1項目）、(5) 性別・年齢。

#### 【研究2】社会変革へのコミットメント尺度の作成

##### ①大学生を対象とした検討

大学生を対象に、社会変革へのコミットメント尺度の因子構造を探索し、社会変革概念の中に想定されている寛容性を促進するか否かを検討する。大学生255名（男性80名、女性175名）を対象に集合調査法による質問紙調査を実施した。

分析項目：(1) 社会変革へのコミットメント尺度候補項目、(2) 犯罪者に対する態度：①出所者の更生保護に対する理解、②出所者の更生保護に対する賛成度、(3) 個人特性：①一般的信頼（山岸, 1998）、②多次元共感性尺度。

##### ②地域活動関与者を対象とした検討

調査会社が有する調査パネルより、首都圏（1都6県）在住の30～70代の男女で、居住自治体の中で地域の活動に携わっている者をスクリーニングし、性別と年代で割付し、各層50名ずつ計500名にWEB調査を実施した。

調査内容は以下の通りである。

(1) 社会変革へのコミットメント尺度（①と同様）(2) 地域変数：地域愛着、近所づきあいの程度、地域内所属組織数、(3) 地域活動推進スキル（研究1と同様）、(4) 地域活動について：最も関わっている地域活動の種類、その地域活動への参加頻度、地域活動継続期間、地域活動内の役割、地域活動継続意図、(5) 一般的信頼（山岸, 1998）、(6) 性別・年齢。

#### 【研究3】地域活動関与者のAdultism認知と地域活動運営スキルとの関連

調査会社が保有する30～69歳のリサーチパネルより、地域活動関与者200名および地域活動不関与者200名の計400名（各年代50名ずつ割付）を調査対象者とし、クローズ型のWEB調査を実施した。分析項目は、(1) シナリオ評価；Youth Empowerment Solutionsのプログラムにおいて、Adultismについてディスカッションする際に用いられていたAdultismを含むシナリオ3つとAdultismを含まないシナリオ2つを翻訳の上、提示し、それぞれについて、若者に対する大人の対応の適切さ、若者に対する尊重度、若者に対する大人の期待度、若者の受容度、若者と対等に場を共有している程度を6件法で評定を求めた（シナリオは発表時に提示）。(2) 地域活動変数：地域内所属組織数、地域活動に対する参加頻度、活動継続年数、活動継続意図をたずねた。(3) 地域や行政に関する項目：行政関心、行政満足度、行政効力感、地域愛着、近所づきあいについて各1項目でたずねた。(4) 地域活動推進スキル（9項目）。(5) 性別・年齢。

### 4. 研究成果

#### 【研究1】地域活動運営スキルの構造

地域活動者のスキルとして、因子分析の結果（主成分分解・バリマックス回転）、「他者を歓迎」「傾聴」「初心者意識」「主体的行動」の4因子が抽出された（表1）。尺度得点の平均値は、順に（Range1-5）であり、全体的に中間点を上回っていた。地域活動者のスキルが地域に対する態度を媒介として、活動継続を規定するかを重回帰分析の繰り返しによるパス解析により分析した（図1）。その結果、所属組織数が高いと、地域をよく知っており活動継続期間が長いこと、「他者を歓迎」スキルが高いと、協働的態度と活動継続意図が高いことが明らかとなった。

表1 地域活動運営スキルの構造

	F1	F2	F3	F4	
どんな話でも初めて聞いたようなりアクションをとる	.92	-.18	.01	-.01	
見知らぬ人や関係が浅い人に対して、特に笑顔で接する	.74	-.15	.11	-.05	
場面によって顔を使い分ける	.72	-.09	-.05	-.24	他者を 歓迎
相手に合わせて話す	.68	.04	-.06	.10	
どんな考えや容姿を持つ人でも、寛容に受け入れるようにする	.58	.16	-.17	.17	
話が途切れ気味でも、相手の発言を辛抱強く待つ	.47	.13	.23	.08	
普段よりリアクションを大きくする	.45	.16	-.11	.07	
対象者へのサポートが押し付けがましくならないようにする	-.11	.87	-.11	.02	
相手の話をきちんと聞く	-.05	.76	.00	-.07	傾聴
どんな話でも興味を持った姿勢で聞く	.10	.52	.27	-.04	
活動中は角の立たない接し方を心がける	-.38	.43	.00	-.05	
サポートを相手が必要としていなければ、無理に行わないようにする	-.07	.41	.03	.15	
私生活とボランティア活動は明確に区別している	-.26	-.18	.72	.01	
ボランティア活動に初めて参加する気持ちで参加する	.03	.04	.59	.09	初心者 意識
活動中はでしゃばった行動をしないように心がける	-.18	.04	.57	.03	
指示にきちんと従うようにする	.07	.24	.49	-.13	
サポートや手伝いに縛られず、活動自体を楽しんで行うようにする	.16	-.12	.11	.77	主体的 行動
ボランティア活動中は場面により自分の裁量で判断して行動する	.04	.03	-.15	.65	
対象者へのサポートをしようとかたく考えず活動を行う	-.22	.09	.10	.64	

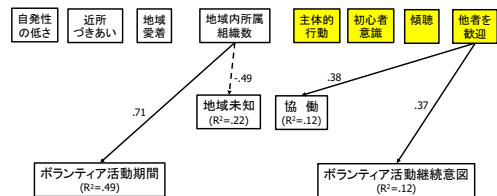


図1 地域活動運営スキルが活動継続に与える影響

## 【研究2】社会変革へのコミットメント尺度の作成

### ①大学生を対象とした検討

社会変革へのコミットメント尺度候補項目について因子分析を行った結果、3因子が抽出された。第一因子は「コミュニティ活動」、第二因子は「公正実現行動」、第三因子は「レディネス」と命名された（表2）。尺度平均を見ると、公正実現行動は理論的中間点を下回り、コミュニティ活動は理論的中間点を上回っていた。この尺度の妥当性を検討するために、社会変革へのコミットメントが出所者に対する態度をどのように影響するかを検討した。その結果、他者志向的情動反応は、「公正実現行動」を媒介し、更生保護への賛成度を促進させたが、「レディネス」を媒介した場合には、更生保護への賛成度を抑制していた。

### ②地域活動関与者を対象とした検討

社会変革へのコミットメント尺度候補項目について因子分析を行った結果、3因子が抽出された。第一因子は「公正実現行動」、第二因子は「コミュニティ活動」、第三因子は「レディネス・ボランティア」と命名された（表3）。尺度平均を見ると、公正実現行動は理論的中間点を下回り、コミュニティ活動とレディネス・ボランティアは理論的中間点を上回っていた。地域内活動組織別に、社会変革へのコミットメント得点の平均差を検討した。その結果、「商店会・同業者組合」参加者が不参加者よりも、公正実現行動得点が高かった( $t(498)=1.99, p<.05$ )。「スポーツ・趣味のサークル」参加者が不参加者よりも、レディネス・ボランティアが高かった( $t(498)=2.04, p<.05$ )。「福祉活動団体」参加者が不参加者よりも、公正実現行動とレディネス・ボランティアが高かった( $t(498)=2.94, p<.01$ ;  $t(498)=3.74, p<.01$ )。「ボランティア組織」参加者が不参加者よりも、レディネス・ボランティアが高かった( $t(498)=3.16, p<.01$ )。この尺度の妥当性を検討するために、社会変革へのコミットメントが地域活動参加に影響するかどうかを検討した結果、一般的信頼・地域愛着・近所づきあいの高さが「レディネス・ボランティア」を媒介し地域活動頻度を促進していた。一般的信頼・地域愛着が高いと「コミュニティ活動」を媒介し、地域活動頻度を抑制し活動継続意図を促進していた。公正実現行動の媒介的影響はみられなかった。

地域活動関与者の地域活動推進スキルの構造を分析するために、最尤法・プロマックス回転による因子分析を行い4因子が抽出された（表4）。第1因子は「初心と呈示」、第2因子は「ポジティブ忍耐」、第3因子は「抑制関与」、第4因子は「配慮対応」と命名された。社会変革へのコミットメントに対する地域活動推進スキルの効果を分析するために、第1段階として政治行政態度、地域態度、地域とのつながり、活動項目、性別・年齢を強制投入法で投入し、第2段階として地域活動推進スキルの4指標をステップワイズ法で投入する、階層的重回帰分析を行い、決定係数の増分を分析した（表5）。その結果、公正実現行動には「初心と呈示」スキルが促進

効果、「配慮対応」スキルが抑制効果を示していた。コミュニティ活動とボランティア・レディネスには「初心と呈示」スキルと「ポジティブ忍耐」スキルの促進効果がみられた。これらのスキルの影響について、「初心と呈示」スキルは、誰でも受け入れようとする寛容性によって社会変革へのコミットメント全てを高めていた可能性、どんなことでも楽しく引き受ける「ポジティブ忍耐」スキルの促進効果は、コミュニティ活動やボランティア・レディネスが地域色の強いコミットメントであるために出現した可能性、「配慮対応」スキルの抑制効果は、公正実現行動が主張的なコミットメントであるために出現した可能性がそれぞれ考察された。

表2 社会変革へのコミットメント尺度の構造

(大学生)

	F1	F2	F3	$\eta^2$
<b>F1: コミュニティ活動 [M=3.26, SD=.75, <math>\alpha=.88</math>]</b>				
困っている人を支えるために、ボランティア活動に取り組む。	.843	-.230	-.027	.53
地域を活性化させるためにまちづくりの推進を図る活動をする。	.799	.080	-.070	.63
さまざまな人が暮らしやすくなるように環境を整える。	.754	-.021	.029	.58
さまざまな人が働ける社会をつくるために、職に就きにくい人たちの雇用機会を拡充する活動をする。	.638	.112	-.054	.44
困窮している人が社会の中で自立して生活できるように支援活動をする。	.619	.092	-.102	.56
地域の安全を守るために、防犯パトロールをする。	.585	.286	-.101	.47
弱い立場におかれている人たちの意見を聞く。	.512	-.153	.316	.47
立場の弱い人を助けるために、慈善団体に寄付をする。	.502	.018	-.020	.25
国籍や立場が違う人と交流できる場を設ける。	.421	-.082	.346	.44
<b>F2: 公正実現行動 [M=2.23, SD=.92, <math>\alpha=.91</math>]</b>				
平等な暮らしが実現するよう、法律を変える署名集めをする。	-.013	.910	-.078	.74
社会の不平等を是正するように制度の改革を求める。	-.011	.888	.008	.79
不正な献金を受けた政治家を辞めさせるために、リコール運動をする。	-.107	.861	-.004	.65
平等を獲得するために、デモの呼びかけをする。	-.001	.783	.048	.66
労働者の権利や社会保障を増大させるよう、政治に働きかける。	.152	.520	.212	.61
<b>F3: レディネス [M=2.90, SD=.88, <math>\alpha=.88</math>]</b>				
社会に潜んでいる問題について、自分の意見を表明する。	-.095	-.020	.893	.67
社会の問題を解決するために、その問題について勉強する。	.025	-.079	.813	.62
社会を変えるために、解決するべき問題を提起する。	.007	.111	.763	.71
社会問題を学ぶために、勉強会に参加する。	.043	.111	.622	.53
社会問題について関心を持つよう、周囲の人に促す。	.171	.212	.451	.55
Factor correlation	(F1)	0.54	0.71	
	(F2)		0.62	

表3 社会変革へのコミットメント尺度の構造

(地域活動関与者)

	F1	F2	F3	$\eta^2$
<b>F1: 公正実現行動 (M=2.77, <math>\alpha=.92</math>)</b>				
平等な暮らしが実現するよう、法律を変える署名集めをする。	.898	.012	-.047	.76
不正な献金を受けた政治家を辞めさせるために、リコール運動をする。	.866	.140	-.168	.67
社会の不平等を是正するように制度の改革を求める。	.775	.002	.146	.77
労働者の権利や社会保障を増大させるよう、政治に働きかける。	.746	.166	.028	.72
平等を獲得するために、デモの呼びかけをする。	.742	-.189	.203	.67
<b>F2: コミュニティ活動 (M=3.48, <math>\alpha=.85</math>)</b>				
さまざまな人が暮らしやすくなるように環境を整える。	.061	.896	-.152	.68
地域を活性化させるためにまちづくりの推進を図る活動をする。	-.017	.822	-.065	.60
地域の安全を守るために、防犯パトロールをする。	-.005	.600	.012	.37
社会の問題を解決するために、その問題について勉強する。	-.031	.558	.309	.61
さまざまな人が働ける社会をつくるために、職に就きにくい人たちの雇用機会を拡充する活動をする	.181	.421	.150	.41
国籍や立場が違う人と交流できる場を設ける。	.040	.404	.312	.46
<b>F3: レディネス・ボランティア (M=3.20, <math>\alpha=.91</math>)</b>				
困っている人の支えになるために、ボランティア団体を立ち上げる。	.298	-.273	.720	.65
社会問題を学ぶために、勉強会に参加する。	-.035	.139	.686	.58
困っている人を支えるために、ボランティア活動に取り組む。	-.164	.230	.677	.56
困窮している人が社会の中で自立して生活できるように支援活動をする。	.222	-.031	.660	.65
立場の弱い人を助けるために、慈善団体に寄付をする。	.135	-.065	.622	.46
社会を変えるために、解決するべき問題を提起をする。	.049	.299	.565	.68
社会問題について関心を持つよう、周囲の人に促す。	.063	.253	.528	.58
社会に潜んでいる問題について、自分の意見を表明する。	.072	.281	.485	.56
弱い立場におかれている人たちの意見を聞く。	-.120	.385	.455	.49
	F1	.40	.66	
	F2		.65	

注: Mは尺度得点の平均を項目数で除した値を表記している

表4 地域活動推進スキルの構造

	F1	F2	F3	F4
その活動中は、初めて参加するのよう振る舞う	.843	-.076	.111	-.116
どんな話でも、初めて聞いたリアクションを取る	.764	-.074	.058	.093
普段よりリアクションを大きくする	.519	.165	-.224	.252
場面によって顔を使い分ける	.518	.018	-.088	.257
その活動中は、初めて参加する心持ちで参加する	.499	.130	.291	-.103
仕事を進んで引き受けていくようにする	.040	.870	-.238	.031
サポートや手伝いに縛られず、活動自体を楽しんで行うようにする	-.032	.691	-.133	.018
どんな話でも、興味を持った姿勢で聞く	.039	.551	.241	.017
話しが途切れ気味でも、相手の発言を辛抱強く待つ	.121	.449	.396	-.127
私生活とその活動とは明確に区別している	.079	-.071	.532	-.040
責任の取れないことは引き受けないようにする	.082	-.344	.506	.243
活動中は角の立たない接し方を心掛ける	-.102	-.041	.486	.444
相手へのサポートでは押し付けがましくならないようにする	-.208	.348	.480	.158
指示にきちんと従うようにする	-.093	.261	.454	.115
相手の話に合わせて話す	.108	-.003	.221	.575
見知らぬ人や関係が浅い人に対して、特に笑顔で接する	.174	.143	.023	.584
	F1	.28	.28	.33
	F2		.59	.46
	F3			.42
	M	14.80	14.23	18.80
	SD	3.46	2.67	2.80

表5 地域活動推進スキルが社会変革へのコミットメントに与える影響

基準変数	公正実現行動			コミュニティ活動			ボランティア・レディネス		
政治行政関心	.148 **	.112 *	.118 *	.254 **	.178 **	.176 **	.243 **	.213 **	.175 **
政治行政満足	-.153 *	-.192 **	-.197 **	-.011	-.043	-.054	-.074	-.107 *	-.119 *
政治行政効力感	.133 *	.142 *	.142 *	.074	.083	.085	.108	.115 *	.120 *
地域愛着	-.017	-.019	-.010	.106 *	.069	.074	.058	.057	.036
協働	-.029	-.007	.028	.133 **	.098 *	.112 **	-.017	.001	-.023
地域未知	.010	-.043	-.057	-.001	-.010	-.029	.024	-.019	-.016
第1段 独自開拓	.233 **	.171 **	.155 **	.127 **	.102 *	.082	.294 **	.242 **	.238 **
寛容性	.055	.126 **	.134 **	.097 *	.100 *	.127 **	.060	.118 **	.109 **
一般的信頼	.030	-.010	.013	.083	.046	.036	.112 *	.078	.063
第2段階 地域内所属組織数	-.044	-.070	-.079	-.042	-.057	-.065	.007	-.015	-.020
近所づきあい	.068	.068	.068	.020	.013	.014	.068	.068	.064
Q8活動参加頻度	.014	.009	.024	-.032	-.065	-.062	.050	.046	.028
Q9活動継続期間	.051	.068	.066	.002	.004	.010	.006	.020	.019
性別(ダミー)	-.053	-.076	-.053	.006	-.018	-.023	.020	.001	-.009
年齢	-.070	-.043	-.050	-.010	-.007	.003	-.022	.000	-.002
第1段 F1: 初心と呈示		.333 **	.417 *		.128 **		.277 **	.222 **	
第2段階 F2: ポジティブ忍耐					.299 **	.253 **		.174 **	
第3段階 F3: 抑制関与									
第4段階 F4: 配慮対応			-.171 *						
$R^2$	.09	.19	.21	.20	.26	.28	.26	.32	.34

【研究1】と【研究2】の知見を総合すると、市民参加の多様性や継続性を促進する上で求められる特徴として、研究1の「他者を歓迎」スキルや、研究2の②における「初心と呈示」スキルのように、誰でも受け入れようとする寛容な関わりや行動であることが明らかとなった。このスキルは、相対的に頻度の低い地域活動にも参加している行動レベルでの高関与者が抱くコミットメントである公正実現行動と関連していた。このような誰でも受け入れよう



とする寛容な関わりや行動を阻害する要因として、欧米のコミュニティ心理学における Empowerment 向上プログラムにおいて「Adulthood」が取り上げられている。Adulthood とは、「大人が『若者よりも優れており、若者をコントロールできる』と考えること」と定義される。Adulthood は大人が子どもに与える力の乱用を論じる概念として提唱された概念である (Flasher, 1978)。そこで本研究では、継続的で多様な市民参加を促進するための運営を分析するため Adulthood に注目し、地域活動者の Adulthood 認知を分析する。

### 【研究3】地域活動関与者の Adulthood 認知

地域活動関与者の Adulthood シナリオ・非 Adulthood シナリオに対する評価を図4に示す。その結果、Adulthood を含まないシナリオ1とシナリオ4では5つの評価指標が3.5の理論的中間点を上回っており、Adulthood を含む3シナリオでは、5つの評価指標がおおむね理論的中間点を下回っていた。そこで、Adulthood を含む3シナリオの評価を評価側面ごとに加算し指標とした。Adulthood を含む3シナリオの評価を評価側面ごとに加算し指標と、地域活動変数や地域や行政に関する項目との相関係数を算出した。その結果、地域内所属組織数・行政関心・行政満足度・行政効力感・地域愛着・近所づきあいと5つの評価側面との間すべてに正の有意な相関が得られた。この結果は、地域活動変数が高いと、Adulthood を含むシナリオであってもポジティブな評価を示していることを意味する。また、回答者の年齢と性別による Adulthood を含むシナリオ評価に有意な差はみられなかった。このように、地域や行政への関心が高さと Adulthood 評価に正の関連がみられたことは、現在の日本における地域活動が大人中心で、若者が参加する余地が少なかったり、若者に対する期待が低かったりすることを示唆していると解釈された。

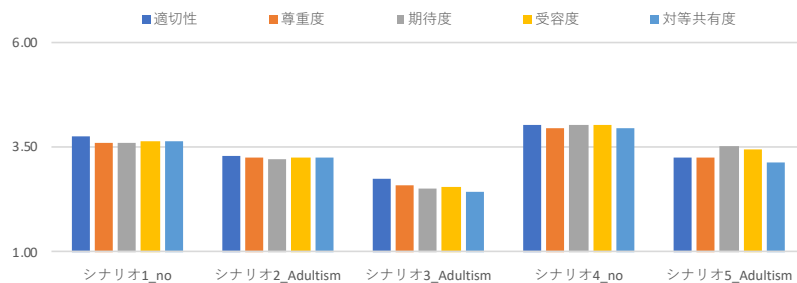


図2 提示したシナリオに対する評価

Adulthood を含む3シナリオの評価を評価側面ごとに加算し指標と地域活動推進スキル項目との相関係数を算出した (表6)。その結果「仕事を進んで引き受けていくようにする」「サポートや手伝いに縛られず、活動自体を楽しんで行うようにする」以外のスキル項目は、Adulthood 評価と正の関連、すなわち、Adulthood への感受性が低いことが示された。いずれのスキル項目においても、Adulthood への感受性の高さ (負の有意な相関) を示されなかった。

表6 Adulthood を含むシナリオに対する評価と地域活動推進スキル

	Adulthood 適切性	Adulthood 尊重度	Adulthood 期待度	Adulthood 受容度	Adulthood 対等共有度
どんな話でも初めて聞いたようなアクションをとる	.228**	.255**	.223**	.197**	.255**
普段よりリアクションを大きくする	.263**	.302**	.265**	.210**	.293**
初めて参加する気持ちで参加する	.282**	.255**	.348**	.307**	.319**
話が途切れ気味でも、相手の発言を辛抱強く待つ	.214*	.095	.147*	.143*	.106
仕事を進んで引き受けていくようにする	.156*	.078	.159*	.132	.058
サポートや手伝いに縛られず、活動自体を楽しんで行うようにする	.117	.029	.138	.105	.066
責任の取れないことは引き受けないようにする	.085	-.039	.006	.020	-.037
リーダーとしてサポートが押し付けがましくならないようにする	.177*	.058	.138	.137	.041
見知らぬ人や関係が浅い人に対して、特に笑顔で接する	.147*	.070	.155*	.104	.048

\*\*p<.01, \*p<.05

【まとめ】現状の地域活動を「地域活動推進スキル」と「社会変革へのコミットメント」の観点から分析した結果、現状では、「他者を歓迎」や「初心と呈示」のような他者への寛容的なスキルが社会変革へのコミットメントを促進することを見出した。一方、現状の地域活動の推進に寄与する特徴を有している者であっても、Adulthood に対する感受性が相関レベルで低いことが明らかになった。今後 Adulthood への感受性に注目して、地域活動推進スキルと社会変革へのコミットメントとの関連を分析することで、継続的で多様な市民参加を促進するための運営手法が提案できると考察された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

1. 安藤清志・高橋尚也・井上果子(2017). 自然災害における職務関連ストレス(第31回国際心理学会議招待シンポジウム報告) 産業・組織心理学研究, 30(2), 199-202.
2. 高橋尚也・土肥彩香(2018). ホームレスに対するステレオタイプが認知者のリスク認知に与える影響 立正大学心理学研究年報, 9, 35-41.
3. 高橋尚也(2018). 行政と住民との協働に関する社会心理学的研究の動向—協働の進展プロセスに関する仮説モデルの提唱— 応用心理学研究, 43(3), 195-207.
4. 高橋尚也(2019). 社会変革へのコミットメント尺度の作成:信頼性と妥当性の検討 立正大学心理学研究所紀要, 17, 17-24.

〔学会発表〕(計10件)

1. 笠原舞華・高橋尚也(2015). 出所者に対するステレオタイプが出所者への受容的態度に与える影響 日本心理学会第79回大会発表論文集(2015.9.22-24、名古屋国際会議場)
2. 高橋尚也(2015). 地域活動に対する態度と認知された社会関係資本指標との関連:有為抽出された品川区民を対象とした検討 日本社会心理学会第56回大会発表論文集(2015.10.31-11.1、東京女子大学)
3. Takahashi, N. (2016). The impact of perceived volunteer probation officers on attitude of offenders. The SPSSI's 2016 summer conference, Minneapolis, MN, USA, June 24-26.
4. Takahashi, N. (2016). Exploratory study of skills for promoting community activities in Japan. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.
5. 高橋尚也(2016). ボランティア活動者のスキルと関連する要因の検討 日本社会心理学会第57回大会(2016.9.17-18、関西学院大学)
6. Takahashi, N. (2017). Development of the commitment scale for social change. The 16th Biennial Conference of the Society for Community Research and Action, Ottawa, Canada, June 21-24.
7. Takahashi, N. (2018). Help-seeking behavior in natural disasters and occupational image by occupational disaster reliever. 29th International Congress of Applied Psychology, Montreal, Canada, June 26-30.
8. 高橋尚也(2018). 社会変革へのコミットメントに対する地域活動推進スキルの効果 日本社会心理学会第59回大会(2018.8.28-29、追手門学院大学)
9. 高橋尚也(2018). 社会変革へのコミットメント尺度の作成 日本グループ・ダイナミックス学会第65回大会(2018.9.8-9、神戸大学)
10. Takahashi, N. (2019). The impact of community participation in commitment for social change in Japan. 17th SCRA Biennial Conference on Community Research and Action, Chicago, IL, USA, June 26-29.

〔図書〕(計3件)

1. 高橋尚也(2018). 住民と行政の協働における社会心理学—市民参加とコミュニケーションのかたち— ナカニシヤ出版
2. 松井豊(監修)・高橋尚也・宇井美代子・畑中美穂(編著)(2019). 社会に切りこむ心理学 サイエンス社
3. 松井豊(監修)・畑中美穂・宇井美代子・高橋尚也(編著)(2019). 対人関係を読み解く心理学 サイエンス社

〔産業財産権〕

- 出願状況(計0件)
- 取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等 <https://phantom708t.wordpress.com>

## 6. 研究組織

### (1) 研究協力者

研究協力者氏名: Marc Zimmerman(University of Michigan)

ローマ字氏名: Marc Zimmerman(University of Michigan)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。